19日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

母 公 開 特 許 公 報(A) 平2-170266

 ❸公開 平成2年(1990)7月2日

G 06 F 15/20

301 G

7165-5B 7165-5B

審査論求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

公発明の名称 文督入力・検索装置

②特 願 昭63-323721

②出 顕 昭63(1988)12月23日

@発明者 若 杉

神奈川県横浜市港北区綱島東4丁目3番1号 松下通信工

费株式会社内

@発明者 鈴木 政 鄭

神奈川県横浜市港北区綱島東4丁目3番1号 松下通信工

業株式会社内

勿出 顋 人 松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

四代 理 人 弁理士 星野 恒司

明 畑 🛪

- 1. 発明の名称 文容入力・検索装包
- 2. 特許設束の処理

文書入力装配における文者を、過常の文章、図面等から成る本文と、本文とは別に格納する注釈データおよびその位置を指し示す付為とに分けて管理する解成を有すると共に、文書の特定の位置に往釈を記入し、それを検索し、表示する優能および往釈を恐作するためのキーを持つ文容入力・検索装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本免別は、文書内に本文以外の注釈を記入し、 その位置の検索を高速に行うことができる文章入力・検索装置に関する。

(従来の技術)

従来の文容入力装置では、注釈等を記入する手 段は本文内に記入する以外に存在しなかった。

(発明が併決しようとする段題)

世来のものでは、たとえ注訳を記入し得たとしても、それは本文内であり、印刷、表示等にも区別なく出てしまう。また、注訳のある場所に高速に移動し、表示、超級することはできなかった。本発明では、本文以外に注釈を入力することを可能にし、通常の印刷、表示では見えない、また、注釈の位置を高速に検索し、表示、超级することが可能である。

(碌題を解決するための手段)

本発明は、上記目的を遠成するために、文容入力装置における文書を、通常の文章、図而等から成る本文と、本文とは別に格納する注釈データおよびその位置を指し示す付箋とに分けて管理するは成とし、装置にはこれらを提作するためのキーを個えたものである。

(作用)

本発明は、上記のようなผ成により、次のような効果を発する。 すなわち、注釈を本文以外に入力できるため、本文を乱さない。また、注釈の位置を検索できるので、注釈の超级およびその位置

の本文を簡単に 風することが可能である。 (実筋例)

第1回は、本発明の一実施例を示すものである。 図中、1はディスプレイ、2はブリンタ、3は処 孤装似、4 はキー・ボードであり、 构成は従来の 文典入力装置と変わらない。ただし、キー・ボー ドに注釈の入力を指定するための特殊キー(以降、 注訳キーという)を借える。第2回は注釈入力中 の両面の例を示し、5は本文、6は注釈、7は注 釈表示削減、8は注釈タイトルである。第3回は **掛作フローチャートである。**

次に、上記実施例について説明する。過常のほ 集,入力は、従来の文存入力装置と同様である。 文書の超線・入力中にキー・ポード上の注訳キー を押下することにより、注訳入力モードとなる。 注訳には、タイトルと文章(注釈本体)を入力する ことが可能である。文章人力後、再び注収キーを 押下することにより、通常入力のモードに戻る。 文費には、文章中の全注訳のタイトルー質を表示 するページがあり、特定のタイトルを選択(カー)

> 6…注訳。 7…注积表示領域、 8…注釈タイトル。

> > 松下惟粉煎菜株式会社

ソルを囚く等)して注訳キーを押下することによ り、その注収のあるページへ表示を移功すること がでせる。注訳のある位置は、文中に「A」等で 示され、これを再び選択して注釈キーを押下する ことにより、注収の表示、再超级が可能である。 以上、第3回の往駅の入力、表示領域は、画面上 に矩形で示される。

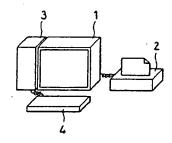
なお、上記実施例では注釈に文章を入力する例 を示したが、これに限ることはない。図形,阈仪 等の温在するデータへの拡張も可能であり、注釈 以外の処広い目的に使用できる。

(売明の効果)

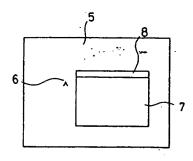
本発明は、上記実施例から明らかなように、本 文以外にデータの入力可能なことにより、従来の 文得入力装置より紙のイメージに近付くことがで を、従来の付箋紙以上の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1回は本発明の一実施例の外領側、第2回は 注訳入力中の両面の例を示す図、第3回は注釈を 扱う説作フローチャートである。



2 図



第 3 図

